



今日のトピック 豪中銀は金融政策を据え置き

金融緩和からの脱却姿勢が豪ドルを下支え

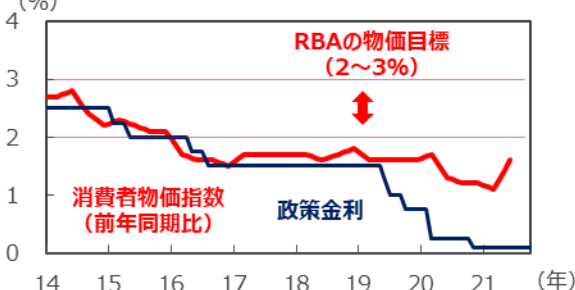
ポイント1 豪中銀は金融政策を据え置き  
政策金利、国債買入れ額を維持

- 豪州準備銀行（RBA）は10月5日の金融政策決定会合で、翌日物金利と2024年4月に償還される国債利回りの目標を0.1%に維持しました。
- 国債買入れプログラムについても、これまで通り週40億豪ドルの買入れを行う方針が維持されています。

ポイント2 テーパリングのペースは緩やか  
金利も2024年まで据え置き継続へ

- 声明文では、新型コロナウイルスのデルタ型の感染拡大を受けて、7-9月期の実質GDPが大幅に減少しています。こうしたことから、「実際のインフレ率が2~3%の目標範囲内に持続的に収まるまで翌日物金利を引き上げない」、「2024年までにこうした状況になるとは予想していない」と、政策金利据え置きを続ける方針を改めて示しています。また、資産購入についても、少なくとも2022年2月中旬まで現行ペースを維持するとしています。
- 一方、景気の落ち込みは一時的なもので、2022年の下期にはデルタ型感染拡大以前の経済軌道に戻るとしています。

【消費者物価指数と政策金利】



(注) 消費者物価指数は2014年1-3月期~2021年4-6月期。変動の大きい項目を除外したトリム平均値。政策金利は2014年1月~2021年10月。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【豪ドル円レートと豪日金利差】



(注) データは2019年1月1日~2021年10月5日。豪日金利差は3年国債利回りの差。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 金融緩和からの脱却姿勢が豪ドルを下支え

- 今回の決定を受けて10月5日の為替市場で豪ドルは米ドル、円に対して小動きとなりました。RBAによる金融緩和からの脱却姿勢が豪ドルを下支えする一方、市場は資産買入れ縮小（テーパリング）のペースが緩やかな点も意識しています。
- デルタ型の感染拡大により都市部でロックダウンが繰り返されていますが、ワクチン接種が進展するとともにこうした行動制限も徐々に緩やかになると想定されます。金融政策の先行きにも大きく影響するため、今後も労働市場や物価に加え、感染動向や経済活動再開ペースなどにも注目が集まります。

ここもチェック! 2021年9月28日 2021年10月の注目イベント

2021年9月24日 FRBはFOMCで近いうちのテーパリング開始を示唆

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。